

令和3年4月（第1回）教育委員会 議事録

1 開会及び閉会の日時

令和3年4月15日（木）午後3時～午後4時40分

2 場所

本庁舎 別館 大ホール

3 出席委員

- ・教育長 松本 謙一
- ・同職務代理者 水上 和夫
- ・教育委員 竹部 俊恵
- ・教育委員 高坂 真理
- ・教育委員 林 紀孝

4 説明出席者

- ・教育部長 村上 紀道
- ・教育部次長生涯学習スポーツ課長 鵜野 幸男
- ・教育総務課長 氏家 智伸
- ・こども課長 溝口 早苗
- ・中央図書館長 武島 朗子
- ・福光福祉会館長 鳥越 知証
- ・文化・世界遺産課長 長岡 芳典
- ・教育センター所長 杉下 悦子
- ・教育総務課副参事 吉尾 徹
- ・教育総務課主幹 川口 雅也
- ・教育総務課主幹 保市のり子
- ・教育総務課主事 井渕 冴梨

5 傍聴者

なし

6 会議の要旨

午後3時、教育長が開会を宣し、議事に入る。

1 教育長の報告

- ・部活動のあり方検討委員会について

3月19日に第3回南砺市立中学校部活動のあり方検討委員会が行われた。市教委が提案している「拠点校化」というおおまかな方向性について、検討委員の全員から賛成をいただいた。

- ・いじめ問題対策連絡協議会について

3月5日に第2回いじめ問題対策連絡協議会が行われた。毎年、同じ調査等を続けており、内容を変えなければいけないと思っていた。しかし、協議会会長からは同じ調査だからこそ、保護者や先生にとっていじめの抑止力になるという助言があり、継続していくことが大事であることを実感した。

- ・市交通安全協会について

4月2日に市交通安全協会から各学校に横断旗を贈呈してもらった。横断旗には「ありがとう」と書かれており、大きく使いやすくなっている。

- ・その他、教育長が出席した会議・行事について概要説明があった。

2 前回議事録の承認

全員異議なく承認した。

3 協議事項

- (1) 令和3年度南砺市教育委員会重点施策（案）について

各課長から説明した。

(2) 教育長の服務に関する承認事項について
教育総務課長から説明した。

(3) 要綱の制定、一部改正について
こども課長から説明した。

4 報告事項

(1) 規則・要綱の制定、一部改正及び廃止について
各課長から説明した。

(2) 令和3年度3月定例会一般質問の要旨について
各課長から説明した。

(3) 令和3年度4月補正予算の概要について
各課長から説明した。

(4) 市職員の人事異動について
教育部長から説明した。

(5) 部活動のあり方検討委員会経過報告
教育総務課長から説明した。

(6) 令和3年度学校訪問研修について
教育総務課長から説明した。

(7) 南砺市立南砺つばき学舎の開校について
教育総務課長から説明した。

(8) 利賀地域長期山村留学の開始について
教育総務課長から説明した。

(9) 南砺市子育て支援アプリ「なんと Hug (ハグ)」について
こども課長から説明した。

(10) 東京2020オリンピック聖火リレー南砺市区間の実施について
生涯学習スポーツ課長から説明した。

(11) 南砺市文化芸術振興基本計画（第2期）及び第2次南砺市文化芸術振興実施
計画の策定について
文化・世界遺産課長から説明した。

(12) 令和3年度南砺市教育センター研修事業計画について
教育センター長から説明した。

5 その他

(1) 南砺市立図書館の4・5月の事業について
中央図書館長から説明した。

(2) 松本謙三先生を学び伝えようフォーラム2020報告書について
福光福社会館長から説明した。

6 今後の日程

次回教育委員会開催（予定）

日時 令和3年5月21日（金）午後2時

場所 中央図書館 会議室

7 議事

協議事項について

協議事項（3）関係

○教 育 委 員 なんどの宝お祝い事業は、これまで祝い品を贈る事業はなかったのか。また、対象児童が年間250人となっているのは、出生数を参考にしてしているのか。

○事 務 局 これまで出生祝い金を支給する事業はあったが、祝い品を贈る事業はなかった。出生数を参考にしていており、年間の出生数から対象児童を250人とした。

○教 育 委 員 資料3にある令和2年度の各事業の申請数はどれくらいなのか。

○事 務 局 令和2年度の（2）出生祝い金支給事業の実績は、240名からの申請があり、金額として2,314万円となった。人数の内訳として、第1子94人、第2子82人、第3子46人、第4子17人、第5子1人となっている。

（3）高等職業訓練促進給付金等事業の実績は、看護師の資格を取得するという理由の申請者1人だった。

（4）自立支援教育訓練給付金事業の実績は無かった。

（5）とやまっ子子育て支援サービス普及促進事業については、発行した子育て応援券の利用率は70%であった。

○教 育 委 員 なんどの宝お祝い事業の目的に「子供の育つ環境に「木育」を取り入れる」とある。文部科学省でも木造の園舎や校舎等による幼小中の「木育」を推奨している。今後、市全体として、どのくらいまで「木育」を検討していく予定なのか。

○事 務 局 教育部と林政課を中心に、「木育」について市全体として検討していく予定である。しかし、まだいつまでに実施するのかなど、今後の日程は決まっていない。

○教 育 委 員 なんどの宝お祝い事業の祝い品紹介があるが、市内のどの地域の事業所が手掛けるのか記載されていれば良いと思う。

協議事項（1）関係

○教 育 委 員 押印廃止とあるが、押印に代わり署名があれば良いと変更になるということなのか。

○事 務 局 一部の申請書は、申請者に住所や名前を記入していただき、それらに加えて、押印もしていただいていた。その押印のみ今年度より不要になった。住所や名前はこれまでと変わらず、記入していただく。押印の代わりに名前のサインが有効になるということではない。

○事 務 局 市民センター等の窓口で申請書に署名していただく場合、本人確認をし、運転免許証の番号等を控えている。

協議事項（6）関係

- 教 育 委 員 昨年度の学校訪問は、基本的に半日であった。今年度は、半日か1日かどちらなのか。これらは、教育委員が決めるのか。
- 事 務 局 西部教育事務所と市教委とで調査を行っており、1日もしくは半日の学校訪問を予定している。
- 教 育 長 学校訪問の日程が決定する前に、教育委員の都合もあるため、どの学校が半日で午前か午後なのかを前もって連絡する。また、西部教育事務所は、学校訪問の「総括」を選択制としているが、市教委としては、主任指導主事から全校で「総括」をしてもらうよう要望している。

協議事項（8）関係

- 教 育 委 員 長期山村留学によって、利賀地域の活性化がされると思うが、市全体にどのような影響があるのか。例えば、利賀地域で成功すれば、平・上平地域でも民謡留学のような事業ができれば良いと思う。利賀地域だけではなく、今後、市全体に活かす方向性は考えているのか。
- 事 務 局 議会からも同じような質問があった。将来的には、利賀地域に限らず、五箇山の世界遺産での長期留学をできれば実施したいと考えている。今回の山村留学に、相当なエネルギーと費用をかけている。これらの事情を踏まえて、今後、他地域での実施を検討したい。
- 教 育 委 員 市外からの参加者に費用をかけているが、その費用を市内在住の子供たちにかけた方が良いと思われる可能性もある。利賀地域だけではなく、市全体の活性化に繋がる取組があれば良いと思う。山村留学に参加している子供たちが、市内の行事に参加してもらい、他地域との交流があれば良いと思う。
- 事 務 局 山村留学の参加者は、利賀地域に住民票を移し、利賀小中学校に通学している。他地域との交流については、学校長と相談して決めたい。山村留学にかかる費用は、育てる会の指導技術に支払っている。育てる会では、市内の子供たちを対象とした週末の野外活動等の企画があると聞いている。南砺市民に還元される事業にしたいと考えている。
- 教 育 委 員 山村留学の周知方法として、メディアを利用することが有効的であると思う。山村留学の様子を積極的に取材してもらい、紹介することで南砺の教育の特色を継続して伝えてほしい。市民の方にも、山村留学の取組を理解してもらい、市内の各地域の教育の情報共有にもなると考える。
- 事 務 局 山村留学事業に限らず、教育部の事業では同様にメディア利用は大切であると思う。教育長と相談しながら、メディアを活用していきたい。
- 教 育 長 昨年度、チーム担任制や義務教育学校について、何度も取材

を受けた。現在、山村留学や部活動のあり方についても取材を依頼している。

○教 育 委 員 週末には、山村留学の参加者と地元の子供たちとの交流がある中で、参加者の保護者と地元の保護者との活動があれば、地域と密着して、定住や移住に繋がると思う。

○事 務 局 運動会や学習発表会等の地元行事と関連付けて、参加者の保護者に来ていただく予定であり、交流ができると思う。

協議事項（9）関係

○教 育 委 員 母子手帳を発行される際に「なんと Hug」を利用していただけと思うが、子供が小中学生になっても利用でき、悩み相談等を行うことが可能であるのか。

○事 務 局 保護者にとって、子供が小中学生になっても悩みや不安があると思う。いつでも相談できるようになっている。保護者ご自身の判断で、「なんと Hug」を利用するかを決めてもらう。

その他

○教 育 委 員 令和2年度よりチーム担任制を導入されているが、いくつか気に掛かっている点がある。小学校で2学級ある学年が2学級同時に国語や社会の授業をしている。先日、学校訪問の際に、床に座って授業を受けている児童を目にした。また、机や椅子を移動させ、1人の先生に対して50人程の児童が授業を受けていた。人数が多いことで集中できない児童もいて、多人数授業の良さが出ていないと思った。床に座らせたり、机や椅子を移動させたりせずに、50人が同時に授業を受けられる教室はないのか。子供たちにとって、2学級同時に授業を受けることが楽しいのか。また、働き方改革となっているが、子供たちのためになっているのか。アンケート等で子供たちの意見を聞いたりするなどして、学校現場を確認してほしい。

○教 育 長 国語や算数に関しては、チーム担任制は必ずしも導入していない。しかし、学校で全教科に対して、チーム担任制を導入したいとなれば、導入してほしいと思う。

○教 育 委 員 例えば、2学級ある学年にもう1人別の教員が入れば、3学級として分けられ、さらに少人数の授業ができると思う。また、多人数で授業を行うのであれば、教育環境を整備してほしい。

○教 育 長 検討したいと思う。各学校の教育の特色を生かし、学校長の判断で改善するよう指導したい。

○教 育 委 員 1年間チーム担任制を導入したが、結果的に失敗であったとならないように柔軟に対応してほしい。

午後4時40分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。

令和3年 月 日

南砺市教育委員会
教育長